九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

日中受身文の構文分析 : 述語動詞の意味特徴を中心に

梅, 佳

https://doi.org/10.15017/1543675

出版情報：地球社会統合科学研究. 3, pp.55-62, 2015-09-25. 九州大学大学院地球社会統合科学府
バージョン：
権利関係：

『地球社会統合科学研究』3号 55～62
Integrated Sciences for Global Society Studies
No.3，pp. 55～62

日中受身文の構文分析
―述語動詞の意味特徴を中心に―

梅（バイ）　佳（カ）

1．はじめに

受身文が文法的に成立するかどうかは、「述語動詞」の特徴と深い関わりを持っている。次の例を見てみよう。

1）華々しい結婚式が挙げられた。
　1)’他们举行了豪华的婚礼。
　1)”？豪华的婚礼被举行了。
2）？私は映画の主人公に感動された。
　2)’我被电影的主人公感动了。

動詞「挙げる」の受身表現である「挙げられる」は例1）の受身文として成立できるが、“被举行”という動詞の受身表現「被举行」は中国語の受身文には用いられないため、例1)”の受身文ではなく、例1）は例1)’の能動文に訳されている。一方、例2）においては、「感動される」という受身表現は日本語受身文には用いられないが、2)’の“被感动”は中国語受身文として成立できる。つまり、日中両言語における受身文の成立する文法的制限が異なっている。本稿では、述語動詞の意味特徴を中心にして、日本語受身文およびその中国語対訳文を対象として考察し、両者の成立条件を明らかにする。

2．先行研究の概観

日中両言語における受身文の共通点と相違点についてこれまでも数多くの研究がなされてきた。

寺村（1982）では「受身」が「直接受身」と「間接受身」の二種類に分けられ、それぞれの「受身」が成立するための「文法的条件」及び「語用的条件」について論じられている[1]。直接受身が成立するための文法的条件を分析するにあたり、寺村氏は意味によって動詞を、「二者の関係を表わす動詞」、「移動の動詞」、「変化の動詞」、「授受動詞」、「『入れる、出す』類の動詞」、「『変える』類の動詞」、「コトを補語としてとる動詞」に分け、それぞれの動詞を用いた能動表現が直接受身に転じうるかどうかを考察した。その成果をまとめると表1になる。

表1：直接受身に用いられる動詞の種類

動詞の種類		動詞の具体例	直接受身に用いられるかどうか
二者の関係を表わす動詞	客体への働きかけ	殺す、つかまえる、助ける… 愛する、憎む、好む… 見る、聞く… 作る、書く、建てる…	○
	相手への働きかけ	かみつく、話しかける… 賛成する、反対する… 恋する、感謝する… 会う、相談する、当たる… 勝つ、負ける、似る…	○ （例外がある）
	相互動作	結婚する、衝突する、争う…	×
移動の動詞		出る、離れる、卒業する… 通る、歩く、走る、飛ぶ… 入る、達する、乗る… 住む、泊まる、立つ…	× （例外がある）
変化の動詞		化ける、なる、変る…	×
授受動詞		贈る、教える、紹介する… 貰う、教わる、あずかる…	○
「入れる、出す」類の動詞		降ろす、出す、入れる…	○
「変える」類の動詞		変える、増やす…	○
コトを補語としてとる動詞		見る、思う、言う…	○

また、動詞の性質と能動―受動の対立との関係を表わすものとして、工藤（1990）は次の図を提示している[2]。

〈他動性〉

有 ｜（２項）
・行為者による対象への積極的はたらきかけ
→全面的対立
（２項）
・外的作用の波及　・相互的動作・知覚活動
再帰的動作　思考活動
→部分的対立
無 ｜（１項）　（２項）
・自己内部の運動　・他者からの作用をうける
→対立なし
↓

工藤によると、「殺す」「切る」「壊す」などのような動詞は対象に積極的に働きかけてゆくものであり、「見る」「聞く」のような知覚活動を表わす動詞及び「思う」「考える」のような思考活動を表わす動詞は対象へのはたらきかけが弱いものである。また、「感じる」「思い出す」などのような動詞は自己内部の運動を表わし、「つかまる」「みつかる」「受ける」などのような動詞は他者から作用をうけることを表わしている。

上の図に示されているように、「行為者による対象＝他者への積極的はたらきかけ」を表わす典型的な他動構造文において、能動―受動の対立が全面的に開花し、この他動性が弱まれば、能動―受動の対立は変容したり、部分的になり、この他動性がなくなるとともに能動―受動の対立もなくなっていく。

一方、中国語の受身文における述語動詞に関する先行研究については、劉月華（1991）と李珊（1993）が挙げられる。

劉月華（1991）は中国語の被構文の述語を考察し、その特徴を次のようにまとめている[3]。

A 動詞の後にアスペクト助詞“了”、“过”がある。

B 述語動詞の後に結果補語か方向補語、程度を表わす様態補語、動量補語、時量補語、介詞フレーズ補語がある。

C 動詞が後に目的語をとる。目的語の前にはよく補語がある。

D 介詞“被”に目的語があり、述語動詞の前にある種の状語があるとき、述語動詞の後には他の成分がなくてもよい場合がある。

李珊（1993）は中国語の“被”構文をA、B、Cの三段に分け、それぞれの特徴を分析した。Aは主語、Bは行為者、Cは述語である。

杯子　被他　打破了。
A　　B　　C

李珊によると、以下の９種類の動詞が中国語受身文の述語動詞として用いられない[4]。

①判断动词（判断を表わす動詞）：是、姓、叫、像、等于……

②有无动词（有無を表わす動詞）：有、无、没……

③助动词（助動詞）：能、可、要、会……

④趋向动词（方向を表わす動詞）：来、去、上、下……

⑤部分存现动词（存在・出現・消失を表わす一部の動詞）：坐、站、出现、消失……

⑥部分心理活动动词（心理活動を表わす一部の動詞）：怕、望、求、后悔……

⑦其他不及物动词（その他の自動詞）：醉、病、谢、肿……

⑧兼类词（動詞でありながら、形容詞または名詞でもある語）：死、毒、油……

⑨其他（その他）：达到、面临……

先行研究の多くは、日本語受身文に用いられるものの中国語“被”構文に用いられない、或いは、中国語“被”構文に用いられるものの日本語受身文に用いられない動詞を個別的にしか論じていない。つまり、いくつかの動詞を提示することができるのみであり、対照的に日中受身文の述語動詞の特徴を示すことはできない。従って、本稿は、動詞を分類した上で、各種類の動詞が日中受身文の述語動詞として用いられるかどうかを考察し、個別的な相違点のみならず、全体的な共通点と相違点も明らかにする。

３．用例収集と分類

３．１　用例収集

本稿では、日本語小説における受身文とその中国語訳文を調査する。日本語を原文とし、中国語訳を持つ小説から、受身文の用例を収集した。以下の表２はその出典である。

３．２　用例分類

本稿では、先行研究を踏まえ、直接受身文の述語動詞として用いられる動詞を次の五種類に分けた[5]。

a 一般動作動詞：殺す、乾かす、壊す、温める、殴る、押す、奪う･･･

b 生産動詞：作る、築く、建てる･･･／開く、行う･･･

c 位置変化動詞：並べる、置く、貼る、敷く･･･
吊る、挙げる、降ろす、抜く･･･
与える、送る、渡す、配る･･･

表２　本稿用例の出典

日本語原文		中国語訳文	
小説名	著者	訳本名	訳者
布団（1907）	田山花袋	棉被（1987）	黄凤英
こころ（1914）	夏目漱石	心（1983）	周大勇
友情（1920）	武者小路実篤	友情（1984）	冯朝阳
痴人の愛（1925）	谷崎潤一郎	痴人之爱（1988）	郭来舜，戴璨之
雪国（1937）	川端康成	雪国（1998）	叶谓渠
斜陽（1947）	太宰治	斜阳（1981）	张嘉林
あした来る人（1954）	井上靖	情系明天（1988）	林少华
金閣寺（1956）	三島由紀夫	金阁寺（1995）	唐月梅
青春の蹉跌（1968）	石川達三	青春的蹉跎（1981）	金中
ノルウエィの森（1987）	村上春樹	挪威的森林（2001）	林少华

（北京日本学研究センター（2003）『中日対訳コーパス』第一版による）

d 心 理 動 詞：愛する、恨む、好む、信頼する、尊敬する･･･
見る、聞く、眺める、覗く･･･
思う、理解する、疑う、考える･･･

e 言語活動動詞：誘う、励ます、ほめる、叱る、責める、口説く･･･
発表する、述べる、説明する、話す、言う、伝える、報告する･･･

以下において詳しく分析する。

４．構文の対照分析

４．１　一般動作動詞

本稿では、人または物事が受動者に積極的に働きかけ、受動者を変化させる意味を表わす動詞を一般動作動詞とする。日本語には、「殺す」、「乾かす」、「壊す」、「温める」、「殴る」、「押す」、「奪う」などが一般動作動詞として挙げられる。この種類の動詞は他動性が強いため、日本語受身文の述語動詞として用いられる。収集した用例のうち、述語動詞が一般動作動詞であるのは1534例、73.01%を占めている。また、その対訳文を見てみると、その93％は中国語の受身文と対応している。

３）「すると殺されるのも、やはり不自然な暴力の御蔭ですね」（こころ）

３）’“这么说，被杀的人，也是沾了非自然暴力的光啦。”

４）今度は老師の荒々しい怒りを、雷のような大喝を待った。殴打され、蹴倒され、血を流す羽目になっても悔いないだろうと私は思った。（金閣寺）

４）’这次我只等着老师暴跳如雷了。我想即使被打、被踢，鲜血直流也不后悔。

４．２　生産動詞

本稿では、物事をなかった状態から存在する状態に作り出すことを表す動詞を生産動詞と呼ぶ。日本語においては、「作る」、「築く」、「建てる」のような動詞は生産動詞に属する。生産動詞は日本語受身文の述語動詞として用いられる。しかし、対訳文を見てみると、“被”などの受身マーカーを持つ典型的な受身文ではなく、すべて中国語の「意味上の受身文」[6]に訳されている。

５）けれども個人の別荘は其所此所にいくつでも建てられていた。（こころ）

５）’不过在那一带，私人别墅却散散落落地建有好多所。

６）再び克平のところへ戻ると、昼食の食膳が作られてあった。（あした来る人）

６）’当再次折回克平那里时，午饭已经做好了。

一方、「開く」、「行う」などのような、抽象的な物事を対象とする生産動詞となると、日本語受身文の述語動詞として用いられるが、中国語においてはほとんど用いられない。それらは次の例７）と例８）のようにみな中国語の能動文に訳されている。

７）にもかかわらず、私は自分の出奔が衝動によって行われたと考えるほうを好む。（金閣寺）

７）’尽管如此，我还是愿意把自己的出走看成是冲动所导致的结果。

７）”？尽管如此，我还是愿意把自己的出走看成是被冲动所导致的结果。

８）革命は、いったい、どこで行われているのでしょう。すくなくとも、私たちの身のまわりに於いては、古い道徳はやっぱりそのまま、みじんも変らず、私たちの行く手をさえぎっています。（斜陽）

8)’革命究竟在哪里进行着呢？至少在我们身边，旧道德仍旧毫无改变，还在拦住我们的去路。

8)”？革命究竟在哪里被进行着呢？至少在我们身边，旧道德仍旧毫无改变，还在拦住我们的去路。

4．3　位置変化を表わす動詞

位置変化を表わす動詞には、放置、移動、授受の意味を表わす動詞が含まれている。放置の意味を表す動詞は「並べる」、「置く」、「貼る」、「敷く」など、移動の意味を表す動詞は、「吊る」、「挙げる」、「降ろす」、「抜く」など、授受の意味を表す動詞は「与える」、「送る」、「渡す」、「配る」などが挙げられる。

放置の意味を表す動詞は、一般的に日本語受身文の述語動詞として用いられる。しかし、それは中国語の“存現文”（“场所＋他動詞＋后置主語”）に対応するものが多い。なぜなら、これらの動詞を用いた直接対象受身文は、例９）と例10）のように、他動性が弱く、ほぼ結果状態を表すからであると考えられる。

9）八百屋の店には松茸が並べられた。（蒲団）

9)’菜店里摆出了松蘑。

10）机の上に郵便物が二つのかごにはいって置かれてある。一つのかごには「要返事」と書かれた紙がはられてある。（あした来る人）

10)’桌上放有两个信函篓。一个贴着纸条，上面写着“待复信”。

移動の意味を表す動詞は日本語の場合、受身文の述語動詞として用いられるが、中国語の場合、受動者が有情物であれば、例11）のように“被”などの受身マーカーを持つ典型的な受身文の述語動詞として用いられる。受動者が無生物であれば、例12）のように「意味上の受身文」の述語動詞として用いられる。

11）「可哀そうに、メインテーブルから外されて。」
——「いいや、彼はどこの席へ行ってもひがまんよ。仕事がいま日の出の勢だ。その替り、テーブルスピーチを二枚ばかり上に上げよう」
（あした来る人）

11)’“真可怜，被从主宾席上拉下来了。”
“不，不，他去哪里都不会介意的。眼下事业上正春风得意。不过，致词顺序给他提前两位好了。”

12）国旗がポールから降ろされ、食堂の窓に電気が灯った。（ノルウェイの森）

12)’国旗从旗杆降下，食堂窗口亮起灯光。

「与える」、「配る」、「譲る」、「贈る」など授受の意味を表わす動詞は、日本語受身文の述語動詞として用いられる。しかし、こういう動詞を用いた受身文は、被害の意味が含まれず、受益の意味が含まれている（例13）と14)）。一方、対訳文を見てみると、受身文ではなく、能動文である。つまり、授受の意味を表わす動詞は中国語の受身文の述語動詞として用いられるのは受動者が被害を被る場合だけであると考えられる。

13）父は先祖から譲られた遺産を大事に守って行く篤実一方の男でした。（こころ）

13)’父亲兢兢业业地守着祖上留下来的遗产，纯粹是个忠厚笃实的人。

14）鶴川の家は東京近郊の裕福な寺で、学資も小遣も食糧も潤沢に家から送られ、ただ徒弟の修業を味わわせるために、・・・（金閣寺）

14)’他住在东京近郊，是颇有名望的寺院之子，学费、零用和口粮都由家中充分供给，…

4．4　心理動詞

李临定（1990：249）は心理動詞を以下のように定義している。“凡表示喜爱、怨恨、感觉、认知、遗忘等和心理活动密切有关的动词，称为心理活动动词。（凡そ好き、恨む、感覚、認知、忘れるなどの心理の動きと密接な関係を表す動詞を心理動詞と呼ぶ。）”本稿では、この定義に適すると思われる動詞について、「対象に対する積極的な心的態度を表すもの」を「心理動詞」とし、またその下位分類をそれぞれ「状態心理動詞」（「愛する」、「恨む」、「好む」、「信頼する」、「尊敬する」など）、「知覚活動動詞」（「見る」、「聞く」、「眺める」、「覗く」など）、「思考活動動詞」（「思う」、「理解する」、「疑う」、「考える」など）と呼ぶことにする。

15）「わたしはわたしで、貴方に愛されたこともなかったかわりに、貴方に本当の愛情を持ったこともなかったかと思うんです。」（あした来る人）

15)’“我也如此，既没有被你爱过，同时也可能没有对你产生过真正的爱情。

16）元よりそれは一般の注意をひく力はなかったが、一部からは大いに期待され、恐れられもした。
（友情）

16)’比起从前，虽说没吸引普遍注意的力量，却也引起了一部分人的期望或恐惧。

16)”？比起从前，虽说没吸引普遍注意的力量，却也被一部分人期望或恐惧。

17）自分が遭難者に間違えられたことで、まるで自分

がだれからも心配されて然るべき権利を持ってでもいるような言い方をした。（あした来る人）

17)’瞧他那口气，就好像他被误认为遇难者，因此就拥有任何人都必须担心自己的权利似的。

17)”？瞧他那口气，就好像他被误认为遇难者，因此就拥自己必须被任何人担心的权利似的。

以上の例で見られるように、日本語はいずれも成立するが、中国語においては、16)”、17)”の状態心理動詞の場合は成立しにくい。つまり、状態心理動詞の場合、日本語は中国語より成立しやすいのである。

本稿では、人間が視覚･聴覚･味覚など五感により行った知覚活動を表わす動詞を知覚活動動詞とする。日本語において、「見る」はその代表的な動詞である。他には、「聞く」、「眺める」、「覗く」なども含まれている。このような動詞は、行為者の積極的な意志が入っているため、日中両言語の受身文の述語動詞としても用いられる。

18）近所の人に見られて不審に思われるんじゃないかと心配したが、…（ノルウェイの森）

18)’我担心被附近的人发现招致怀疑，……

19）不具者も、美貌の女も、見られることに疲れて、見られる存在であることに飽き果てて、追いつめられて、存在そのもので見返している。（金閣寺）

19)’残疾人也好，美女也好，都已疲于被人注视，厌于再做一个被看的存在；当其走投无路时，遂回首以其存在本色相见。

思考活動動詞は「内容」に言及するかどうかにより以下の二種に分けられる。

A「人が＋人・物事を＋思考活動動詞」

B「人が＋内容を／と＋思考活動動詞」

Aの「人＋が＋人・物事＋を＋動詞」に用いられる動詞として、「知る」、「間違える」、「理解する」などが挙げられ、それに対応する中国語動詞は“知道”、“搞错”、“理解”などである。これらの動詞は日中両言語においても、受身文の述語動詞として成立できる。

20)「永沢君、あなたは私にもべつに理解されなくったっていいと思ってるの?」とハツミさんが訊いた。（ノルウェイの森）

20)’“永泽，你认为不被我理解也可以的？”初美问。

21）自分が遭難者に間違えられたことで、まるで自分がだれからも心配されて然るべき権利を持ってでもいるような言い方をした。（あした来る人）

21)’瞧他那口气，就好像他被误认为遇难者，因此就拥有任何人都必须为自己担忧的权利似的。

Bに用いられる動詞は、「思う」「考える」などであり、それに対応する中国語の動詞は“认为”“觉得”などである。こういった動詞は、例22）のような受身文の述語動詞として用いられる例があるが、多くの用例は例23）のように、受身より自発と解釈されるのがより適切であると考えられる。したがって、この文型に用いられる動詞は、日中両言語において、受身文の述語動詞として成立しにくいと言えよう。

22）キズキにはたしかに冷笑的な傾向があって他人からは傲慢だと思われることも多かったが、…（ノルウェイの森）

22)’木月有一种喜欢冷笑的倾向，往往被人认为傲慢，……

23）その身と芳子とは尽きざる縁があるように思われる。（蒲団）

23)’总觉得他和芳子之间有无限的缘分。

23)”？被觉得他和芳子之间有无限的缘分。

4．5　言語活動動詞

本稿では、人が言葉を通じてコミュニケーションする活動を表わす動詞を言語活動動詞とする。この言語活動動詞を述語動詞とする受身文はさらに以下の二種類に分けられる。

A「人が＋人・物事を＋言語活動動詞」

B「人が＋内容を／と＋言語活動動詞」

Aの「人＋が＋人・物事＋を＋動詞」という文型であるが、「人・物事」に対する働きかけを表わすのみで、言語活動の内容には触れない。日本語においては、この種の能動文に用いられる動詞として、「誘う」、「励ます」、「ほめる」、「叱る」、「責める」、「口説く」などが挙げられる。対応する訳文を見ると、中国語においても、この対象への働きかけが強い動詞は中国語受身文の述語動詞として用いられる。

24）私はKに誘われて上野へ行ったと答えました。（こころ）

24)’我回答说被K约到上野公园去了。

25）御嬢さんは私の顔を見て又笑い出しました。然し今度は奥さんに叱られてすぐ已めました。（こころ）

25)’小姐看着我的脸又笑起来了。然而这回被太太叱责一下就止住了笑。

一方、Bの「人＋が＋内容＋を／と＋動詞」という形の文は、普通の他動詞を用いた能動文と異なり、言語活動の内容に触れている。つまり、言語活動を行う前に言語活動の内容が存在せず、言語活動を行ってはじめてその内容が存在するようになるわけである。この意味では、生産動詞と共通している。この種類の動詞として、「発表する」、「述べる」、「説明する」、「話す」、「言う」、「呼ぶ」、「伝える」、「報告する」などが挙げられる。これらの動詞を述語動詞とする受身文は、ほとんど例26）～例28）のように中立的な意味を表している。

26）禅は無相を体とするといわれ、自分の心が形も相もないものだと知ることがすなわち見性だといわれるが･･･（金閣寺）

26）’据说禅家以无相为体，以悟得己心无相为体，以悟得己心无相为见性。

27）試験の結果が発表されたのは、梅雨の季節にはいってからであった。（青春の蹉跌）

27）’进入梅雨季节之后，公布了考试结果。

27）”？进入梅雨季节之后，考试结果被公布了。

28）崩御の報知が伝えられた時、父はその新聞を手にして、「ああ、ああ」と云った。（こころ）

28）’天皇驾崩的通告传来时，父亲拿着那张报纸，“唉呀，唉呀”地叫着。

28）”？天皇驾崩的通告被传达时，父亲拿着那张报纸，“唉呀，唉呀”地叫着。

中国語においては、“发表”、“公布”、“陈述”、“说明”、“传达”、“报告”などのような動詞が受身文の述語動詞として用いられることは極めて少ない。用いられる場合にしても、ほとんど被害の意味が含まれており、中立的な意味を持つ日本語の受身文とニュアンスが異なっている。したがって、例26）～例28）の中国語の訳文として、“考试结果被公布了”より“公布考试结果”、“天皇驾崩的通告被传达”より“天皇驾崩的通告传来”、“被说成……”より“据说……”のほうがより自然なわけである。要するに、言語活動動詞は、一般的に日本語受身文の述語動詞として用いられるが、中国語の場合、対象への働きかけが強い動詞は中国語受身文の述語動詞として用いられており、言語活動の内容にしか触れず、客体への働きかけの弱い動詞は用いられない。

5．まとめ

以上の分析により、日中両言語における受身文の成立条件は次の表３にまとめられる。

表３　受身文及びその中国語対訳文の述語動詞の成立条件

動詞の種類			受身文の述語動詞として用いることができるかどうか	
			日本語	中国語
一般動作動詞			○	○
生産動詞	具体的		○	△
	抽象的		○	×
位置変化動詞	放置		○	×
	移動	受動者が有情物	○	○
		受動者が非情物	○	△
	授受		○	×
心理動詞	状態		○	少数
	知覚活動		○	○
	思考活動	内容に言及しない	○	○
		内容に言及する	△	×
言語活動動詞			○	△

この表３から日中両言語における受身文述語動詞の成立条件の異同点がうかがえる。

共通点としては、一般的に、動作性或いは受動者への影響の強い動詞（一般動作動詞、受動者が有情物の移動動詞、知覚活動動詞）が受身文の述語動詞として用いられやすく、受動者に影響を与えない動詞（内容に言及する思考活動動詞）は受身文の述語動詞としてめったに用いられない、という点が挙げられる。

一方、相違点としては、まず、抽象的な生産の意味を表わす動詞、放置、授受の意味を表わす位置変化動詞は中国語受身文の述語動詞として用いられない。また、具体的な生産の意味を表わす動詞、受動者が非情物の移動動詞は中国語受身文の述語動詞として用いられるが、「被」などの受身マーカーを持つ典型的な受身文ではなく、「意味上の受身文」として成立している。さらに、状態心理動詞はめったに中国語受身文に用いられない。

本稿では、述語動詞の意味特徴を中心にして、日中両言語における受身文の成立条件を検討した。これからは、今回の結果をもとに、両言語の相違点について更に詳しく考察を進めたい。

---

1 寺村（1982：212～254）を参照されたい。

2 次の図は工藤（1990：68）によるものである。

3 以下の分析は、劉月華（1991：641～649）によるものである。

4 李珊（1993：77～80）を参照されたい。

5 この分類は工藤（1990）、『分類語彙表』、陈昌来（2002）を参考にしている。

[6] 中国語の「意味上の受身文」は、「主語+動詞」という語順になっており、動詞の動作・作用を受ける対象が主語に置かれている構文である。

参考文献

大河内康憲（1982）「中国語の受身」『講座日本語学10』明治書院

金水敏（1991）「受動文の歴史についての一考察」『国語学』164 集 国語学会

国立国語研究所（1964）『分類語彙表』 秀英出版

木村英樹（1992）「BEI 受身文の意味と構造」『中国語』389号

工藤真由美（1990）「現代日本語の受動文」『ことばの科学 4』むぎ書房

寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味』第Ⅰ巻 くろしお出版

楊凱栄（1988）「文法の対照的研究一中国語と日本語」.『講座日本語と日本語教育５日本の文法・文体（下）』.明治書院

劉月華・潘文娯・故韡著/相原茂監訳（1991）『現代中国語文法総覧（下）』くろしお出版

陈昌来（2002）『现代汉语动词的句法语义属性研究』 学林出版社

李临定（1990）「动词分类研究说略」『中国语文』总第217期

李珊（1993）《现代汉语被字句研究》北京大学出版社

A Sentence Structure Analysis of the Japanese and Chinese Passive Sentence：
-Focusing on the Meaning of Predicate Verbs

Jia MEI

In the Japanese language, the passive is a voice used and also constitutes a grammatical category. There is no such voice in Chinese, where the passive is expressed only by means of functional words and verbs. This difference causes great difficulty to Chinese learners of Japanese. It is important that those engaged in Japanese teaching and translation research how to properly use the passive voice in Japanese. Therefore, the author of this article, through empirical research, will provide a sentence structure analysis of Japanese sentences, along with their Chinese translations, all of which have been taken from a Chinese-Japanese corpus, and specifically focus on the meaning of predicate verbs. The author will attempt to define the different conditions present when the passive is used in Japanese and Chinese, as well as explore the degree to which there might be corresponding factors between the two. The author attaches importance to the practicability of this research and hopes that it will be applied to Japanese-Chinese translation and the teaching of the Japanese language.

Key words: passive sentence, predicate verb, premise condition, the meaning